

希少金属・ネオジム

安定供給実現へ

携帯電話やパソコンなどデジタル製品に欠かせない希少金属(レアメタル)は、その大部分を中国からの供給に頼っている。近年、中国政府が輸出抑制策を打ち出し、資源ナショナルリズムの動きを強めている。アドバンストマテリアルジャパン(東京都港区、03・3560・5181)は、中国河北省に現地企業との合弁でネオジム・鉄・ボロン磁石用合金の製造会社を設立した。供給懸念が強まる中での資源確保策について、中村繁夫社長に聞いた。(東和宏)



「中国に合弁会社を設立した狙いは、中国からの輸入に頼

っており、輸入量の増加と中国国内の需要増大で需給バランスが崩れている。資源争奪戦を打開し、ネオジムの安定供給できる最善策を考えた結果が、現地での合弁設立だ」

「日本は希土類の大半を中国から輸入しており、中国からの供給が止まれば、日本のメーカーは打撃を受けるからだ。輸出税率の引き上げや輸出許可枠の縮小、増徴税還付の撤廃などで、中国のこれまで持っていた魅力が薄れていることもある」

「ロシアの沿海州の開発を提案したい。意外と知られていないが、ロシアはタンクステンやバナジウムなどレアメタルの主要生産国だ。日本が必

中国で合弁生産

沿海州も視野に多元化

「ロシアの沿海州の開発を提案したい。意外と知られていないが、ロシアはタンクステンやバナジウムなどレアメタルの主要生産国だ。日本が必ず訪れて講演してきたが、さらに沿海州との協力関係を深めていく必要がある」

「ほかに注目している地域はありますか。」「軽希土類を産出する米国カリフォルニア州のマウンテンパス鉱山はこれまで休止していたが、08年に操業を再開する。ただ、産出鉱はトリウムや放射性物質を含有するので、中間処理を行う場所を現在ベトナム方面で探している。また、時間はかかるだろうが、カナダや豪州も視野に入れている。我々は流通の役割を担っており、安定供給を実現することから始めていく」

「今後の有力な供給源はありますか。」「アドバンストマテリアルジャパン社長

「致しているうえ、沿海州は日本とも近く、輸送コ

中村 繁夫氏に聞く

アドバンストマテリアルジャパン社長